



「横浜・山北リフレッシュプログラム」 報告書



福島子ども・こらっせ神奈川

後援

楢葉町 楢葉町教育委員会 山北町 山北町教育委員会
横浜市こども青少年局 横浜市教育委員会 神奈川県
神奈川県教育委員会 (財)神奈川県高等学校教育会館

謝辞

「横浜・山北リフレッシュプログラム」成功裡に終了できました ご支援・ご協力有難うございました

「楽しかった」「福島でできないことが出来てよかった」「おもしろかった」「めちゃ楽しい」「来年も絶対来る」「いろいろ思い出がつくれた」「すごくおもしろかった」「普段できなかった川遊び良かった」等参加してくれた子どもたちの大多数がとてもよかったと言ってくれました。中でも「次回は高校生ボランティアとして参加したい」言ってくれた生徒がいたことは、私たちを大変喜ばせました。（参加生徒へのアンケートから）

本年の企画は、会場を広域水道事業団の丹沢荘を一棟貸しして頂く、子どもの希望がある横浜での活動を企画する、大学生を小・中学生の班行動の中心にするなどの改善を加え、立案しました。多くの皆様のご支援とご協力により、実施することができ、無事終了できましたこと大変うれしく思っています。

実施に当たっては、昨年からの横浜市、横浜市教育委員会、榑葉町、榑葉町教育委員会、（財）神奈川県高等学校教育会館などに新たに山北町、山北町教育委員会のご後援を、募集は榑葉中学、榑葉北小学校、榑葉南小学校のご協力を頂きました。これら関係の皆様へ深く御礼申し上げます。

参加してくれた子どもたちは、小学生10名中学生18名の計28名でした。内容は、学生と山北の小中学の先生に教えて頂く学習、川での水遊び、初めてのちくわの手作り、中華街・赤レンガ倉庫などの横浜散策、横浜市立上白根中学校生徒さんとの交流、キャンドルサービスなど盛りだくさんとなりました。参加した生徒は、どれも日頃できないことで、楽しく満足してくれたようですが、帰宅してからも避難生活が続くという厳しい現実がある中で、そう言ってくれたのかなと思うと、私たちの責任の重さを感じます。

今回の反省をしっかりと行い、来年に向けて諸準備を進めたいと思っています。皆様のご支援のおかげで今回も無事実施できましたことに、厚く厚く御礼申し上げます。大変有難うございました。

福島子ども・こらっせ神奈川
代表 山際正道

プログラム

日 程 2013年8月5日(月)から9日(土)

場 所 山北町中川温泉丹沢荘(8月5日から8日)

横浜市野島青少年研修センター(8月8日から9日)

参加者 榑葉つ子28名(小学生10名 中学生18名)

	午前	午後	夜
8月5日	出発	赤レンガ倉庫	ウェルカムパーティー
8月6日	学習	川遊び	自由時間
8月7日	学習	かまぼこ作り	バーベキュー・花火
8月8日	カップヌードルミュージアム (横浜)	中華街・山下公園散策	さよならパーティー
8月9日	赤レンガ倉庫	いわきへ帰宅	

8月5日（月）



朝9時にいわきを出発した榎葉っ子たちは、午後1時半にみんなが待っている横浜・赤レンガ倉庫に到着

「いらっしゃい」
「みんな大きくなったね」

早速班に分かれて赤レンガ散策



山北町中川温泉・丹沢荘に到着



宿の下は丹沢湖に流れる川だよ

オリエンテーションではスケジュールの説明、大学生ボランティアの紹介



8月6日 (火)



朝ごはんです

「朝、昼、夜ごはん、いろいろでおいしかった」

午前は学習の時間 山北の先生方と大学生が教えてくれました。



「時間を短くしてください」「もっと長くていい」「先生におそわってよくわかった」



午後、つり橋を渡って川へ

最初は足から、そのうち全身ずぶぬれで川遊び



「これが一番の楽しみできました」

「久しぶりの川遊び、ストレスはっさんになった」

「トンボは強かった??？」



次々とジャンプ みている大人はハラハラ、ドキドキ



スイカ割り「右だ、左だ、ちょっと前」

夜はカラオケ大会
女子は西野カナがおきにいり

押し入れは秘密基地



8月7日 (水)

この日も午前は学習だよ みんな意外と(?)まじめ



「宿題がおわってホッとしました」「家よりもはかどりました」

昼食は「えれんなごっそ」



「ビール?ゼリーだよ
「食べたことのないものがたくさん」



鈴廣の鈴木副社長

「食べることはそのもののいのちをいただくこと。つながりを持ち、助け合おう。電気もこれから自分たちで作るよ」

ちくわ作りをしました
「うまくまくのはむずかしい」



川原でバーベキュー
最初は火おこし

カマボコゴン



「お肉がとてもうまく焼けた」
「自分で作って食べたので、よりいっそうおいしかった」



花火大会
「久しぶりの花火、楽しかった」

8月8日 (木)

山北から横浜へ
上白根中学校の生徒13人とカップヌードルミュージアムへ



「世界にひとつだけのマイカップラーメンを作りました」

中華街「彩鳳」で昼食



新たに大学生7人が参加し、みんなで横浜散策



マリントワーで上白根女子と



上白根の生徒とさようなら
「もっとしゃべりたかったな～」



最後の夜は横浜市野島青少年研修センターで泊まります



さよならパーティー



スライドショー、
みんなどこにいるかな



キャンドルファイアー
火の神の登場

努力の火、自由の火、愛情の火が点火



じゃんけんゲームの勝者は？



大学生によるAKBのパフォーマンスはハイライト



最後にみんなが感想を一言

8月9日（金）

退所式 帰宅の日です



赤レンガでおみやげ
「時間が短い！」と女の子は少々不満



お手紙渡して涙して
「さようなら、来年も来るね」
「また、会おう！」

実施まで

昨年のプログラムを終えて事務局スタッフ全員が感じたことは、子どもたちのいのちを預かる責任の重さでした。安全・安心のために最も重要なのはロジステック。終了直後から、快適で経済的な宿泊施設さがしに動き出しました。

子供たちを受け入れる体制も重要です。11月に昨年のプログラムにボランティアとして参加してくださった方々を中心に実行委員会をスタートさせ、プログラムや運営体制の議論を重ねました。なかでも大学生のメンバーが大活躍。ITを駆使したネットワークを通じて大学生スタッフ16人が集まりました。子供たちを受け入れるスタッフは30人。10代から60代までの混成チームで、世代を越えて一緒に働くことになりました。

山北・横浜の行政の協力をいただき、宿泊施設が丹沢荘と野島青少年研修センターに決定後は、榊葉っ子の募集です。いわき市にある榊葉町役場、榊葉町教育委員会、榊葉の小中学生が学ぶ仮校舎を訪問しました。いつも貴重なアドバイスをいただいている榊葉中学校の玉澤校長先生のご尽力で、松本榊葉町長、高橋教育長にもお会いすることができました。

いわき市から車で30分の榊葉町役場、榊葉中学校にも行ってきました。榊葉町は現在も夜間は立ち入り禁止で、居住は許可されていません。地震の被害はあまり見当たらず、無人の家屋からは今にも人が出てくるような錯覚さえ覚えました。しかしながら、土がむき出しの田畑に並べられている無数の黒い袋が、現実にはひきもどしてくれました。除染がおこなわれているのです。緑豊かなこんな美しい故郷がすぐそばにあるのに帰ることができない榊葉っ子の思いは……

いよいよプログラムの当日。28人の榊葉っ子を迎えました。18人が昨年のリピーターです。ひとまわり大きくなった子供たちを迎えてのプログラムは、あっという間に過ぎて行きました。4泊5日という短い間でも、私たちが目標としている「移動教室」の実現に向けての課題が少しずつ見えてきます。福島の子供たち全員が、学校単位で一定期間、県外で暮らし学ぶ移動教室。実現にはまだまだハードルが高いのですが、実現できるその日まで失敗もふくめて経験を積み重ねていければと考えています。

今回は、湯川山北町長、山北町役場・教育委員会からの多大なご支援を受け、山北町の小・中学校の先生方13名にも学習ボランティアとして参加していただきました。子供たちも丹沢荘のスタッフをはじめとして、山北の方々の優しさを感じていました。

最後に、このプログラムが実現できたのは、協力していただいた団体・企業、そして財政支援をいただいた賛同人・団体みなさまの支えによっていることを記したいと思います。昨年の賛同人・団体の多くの方々が今年も協力して下さり、新たな賛同もいただいたので、賛同者・団体は200人以上と去年の倍になりました。深く感謝いたします。

事務局長 遠野はるひ

子供たちの感想



全部たのしかった！♡川遊びは駆けちゃったりしたけれど、たのしかった！スタッフさんに怒られちゃったけどたのしかった。学生ボランティアの人、スタッフの人がやさしくしてくれた嬉しかった。とにかく、めちゃたのしかったー！！

班の学生ボランティアさんや他のスタッフさんとたくさんふれあうことができ、仲良くなれました。神奈川にははじめてきたけれど、心も体もスッキリしました。いろいろな体験ができ、いい思い出になりました。企画してくださったみなさんに感謝です！また、来年もきます！

震災があって川にはいれなかったから、は入れてマジよかった。キャンドルファイヤーのときの学生のサプライズ（AKBのスタンプ）がめちゃおもしろかった。



来年もまた来る。バトミントンコートを用意してほしい。Sさんは物知りなのですごい。憧れる。（大学生のみなさん）、AKBは卒業しても、こらっせ神奈川は卒業しないでください。

檜葉のみんなと参加でき、福島ではできないことがたくさんできてよかった。また、来年も参加したいと思った。

内容が非常に充実していて、夏休みの忘れられない思い出となりました。4泊5日、とても楽しませていただきました。改善点として、もう少し体を動かした方が良いと思いました。また、時間に余裕をもった行動をした方が良いと思います。来年は高校生ボランティアとして参加させていただければうれしいです。ぜひ、よんでください。

友だちやスタッフのみんなと楽しく、思い出が残るような体験をさせてもらって、とってもうれしかった。

ボランティア・スタッフの感想

川遊びでは、まさかこんなにびしょ濡れになるとは思いませんでした!!!! でも、一番みんなと遊べて楽しかったです！他にもちくわ作りやカップラーメン作りなど、自分でからだを動かすイベントは子どもたちも活発になっていたのよかったですと思います。

全部のイベントが楽しかったですが、日を追うごとに子供たちとの関係が少しずつ変化していく様子や夜の会話などが強く印象に残っています。みんな、とってもいい子です。また来年もこらっせに参加して、みんなに会いたいです。

子供たちは、川遊びで、水かけっこをしたり、ボール遊びをしたり、岩場から川にジャンプしたりと、はしゃいでいました。出来上がった企画もいいが、遊びの「場」を提供するだけというの大きな意味があると思いました。

小中学生がこんなに元気で、びっくりしました。学生ボランティア同士だけではなく、スタッフの方々とも繋がりができ、良い経験を得られました。夏休みには他のイベントもありましたが、こらっせがこの夏の一番の思い出です！



目に見えない放射能に追われ 生まれ育った家を脱し、未知の土地での仮住まい…そんな子供達を一時でも元気づけたいという素朴な思いの活動です。私達は専門家ではないので不備なこともあったと思います。子どもたちが、ぶきっちょな大人達が「損得抜きで向き合ってくれたな」心の片隅に記憶してくれれば十分です。

ボランティア・スタッフ紹介

学生ボランティア

粟ヶ窪瑠子／石渡博之／大内万里／小笠原由紀／影浦あゆみ／岸間千明／窪田桃子／駒木根怜／齊藤光希／清水雅大／竹内海里／中島亜衣／中野友里／増田怜菜／横山満里奈／渡邊美文

市民ボランティア

稲垣博美／オイドン／大野拓夫／金澤あゆみ／川口由紀／鈴木江郎／蜂谷隆

事務局スタッフ

小山千鶴子／遠野はるひ／中村信子／錦織順子／藤井あや子／山際正道／若林智子

(五十音順)

神奈川新聞 2013年(平成25年)8月8日

川遊び、ちくわ作り体験…

東京電力福島第一原発事故の影響で放射能への不安を抱えながら福島で暮らす子どもたちを招いた保養イベント「横浜・山北リフレッシュプログラム」が、県内で盛り上げられている。福島県楢葉町の小中学生約30人が4泊5日の日程で来県しており、7日は小田原市内でちくわ作り体験などを楽しんだ。(武藤 龍大)

のびのび夏休みを 被災地の子30人、県内招待



楢葉町内の避難生活を送る子どもたちを招き、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

「福島の子どもたち」が主催する「のびのび夏休み」が、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

神奈川新聞 (8月8日)

福島の子、今夏も招待 支援団体、賛同金募る

東京電力福島第一原発事故で、避難生活を強いられる子どもたちを招き、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

「福島の子どもたち」が主催する「のびのび夏休み」が、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

「福島の子どもたち」が主催する「のびのび夏休み」が、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

朝日新聞 (5月28日)

川遊びでリフレッシュ

東京電力福島第一原発事故の影響で、避難生活を強いられる子どもたちを招き、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

「福島の子どもたち」が主催する「のびのび夏休み」が、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

東京新聞 (8月7日)

福島の子どもたちリフレッシュ

東京電力福島第一原発事故の影響で、避難生活を強いられる子どもたちを招き、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

「福島の子どもたち」が主催する「のびのび夏休み」が、県内各地でちくわ作り体験や川遊びなどを楽しんだ。この日は小田原市内でちくわ作り体験を行った。子どもたちは笑顔でちくわを作っていた。

東京新聞 (5月17日)・神奈川新聞 (5月18日)・その他タウン誌に記事を掲載していただきました。

毎日新聞 (8月7日)

ご支援・ご協力いただいた方々

安藤スポーツ・食文化振興財団(カップヌードルミュージアム)／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県内広域水道事業団／神奈川県広域水道サービス(株)／自治労神奈川県公営企業労働組合／彩鳳／(株)小田原鈴廣／盛月堂／丹沢荘／山北町役場／横浜市野島青少年研修センター／横浜マリントワー／横浜YMC A(50音順)

賛同団体

あさひガンマネット／旭区エコオイルの会／旭区女性団体連絡協議会／(株)五十鈴／WE21／ジャパン港北／WE21ジャパンさかえ／WE21ジャパン藤沢／(株)大川印刷／オスプレイ集会カンパ／オリーブの木／神奈川県高等学校教職員組合／(株)相模設備工業／相模鉄道労働組合／(株)相模原商事／神奈川県教職員組合／(株)神奈川県広域水道サービス／神奈川県ネットワーク運動青葉／神奈川県平和遺族会／憲法アカデミー集会カンパ／国際ソロプチミスト横浜／子どもの未来プロジェクト港北／市民自治をめざす神奈川の会／週間金曜日を応援する会／神高教シニア運動／スツットブルトニューム神奈川連絡会／全水道神奈川県広域水道労働組合／全水道神奈川県支部／全造船関東地協全労済分会／W,CO花もめん／W,COポパイ／陶芸サークル創陶会／中川フェスタ／ふれあいフェスタ中川実行委委員会／ユニオンヨコスカ／横浜市教職員組合／渡されたバトン上映実行委員会(50音順)

個人賛同協力者

安西香取／安達義弘／姉齒友子／阿部賢治／石下直子／石川美紗緒／石坂美重子／石橋恵子／井関登志子／市川和子／伊藤大介／稲垣博美／井上さくら／岩本千歳／植田美紀子／内田ハル子／内田喜代子／内山香乃／梅津弘子／梅田悦子／梅原真理子／江守英子／及川壤詞／大森恵子／荻野三千雄／奥村幸子／小田倫子／小畑精武／小山千鶴子／鍵山賀子／加藤伸子／加藤美恵子／金澤あゆみ／金子文夫／鎌田広将／川口由紀／岸辺都／桐谷伊佐子／日下景子／工藤妙子／國井哲雄／久保新一／倉田謙／高力英夫／児玉勇／児玉王子／五反田能子／呉東正彦／小宮市郎／小山立子／坂井信夫／坂井美智子／坂上美代子／坂巻フミエ／佐々木紀子／佐々木智子／笹野和恵／佐藤みつ／佐藤ミサオ／佐藤公彦／重田裕子／地代所達也／篠崎栄子／篠崎佳苗／四宮みどり／柴田昌江／清水郁子／白川真澄／杉田恵子／スキ・チャン／杉山和江／鈴木規子／鈴木昌治／鈴木操／高田修業／高橋祥夫／高橋猛／高柳圭助／武笠ちとせ／竹田邦明／竹中麻美／田尻下和子／田代チエ子／田沼時代／立岡英宏／建持美穂／田所マツ子／谷川弘／千野紀美子／千村和司／塚本鉄男／辻川はるみ／角田行男／津波古勝子／露木順一／露木淳子／鉄地河原清美／土井昌治／遠野はるひ／徳田淳子／戸田真由美／中尾久美子／中川登志男／長澤淑夫／永瀬裕子／長濱恵美子／中村徳子／中村さき子／中村信子／中森圭子／中山雅子／新川順子／匂坂真江／西尾好枝／錦織順子／二宮公子／箱守初代／橋本多恵子／羽立みよ子／蜂谷隆／東祐司／菱川実江子／府川和代／福川世志明／福島健太郎／藤見睦彦／藤本泰成／藤井あや子／古川文乃／古河和男／吉田哲四郎／風呂橋修／本庄サクラ／本間尚子／町田美知子／松岡嘉子／松崎茂／マツダタダシ／松原ノリ子／松本明子／松本和代／松本健子／真矢公子／丸茂高／宮内勝弘／宮内芳子／宮川典子／宮元純子／三輪純子／向田映子／村田由美子／森幸子／森下育代／門間基博／八木弘子／八島忠義／矢島清子／梁島暁美／山浦健太／山浦優太／山川節子／山際正道／山越康彦／山下滋子／山城保男／山城恵子／山中悦子／山西道子／山根徹也／若林智子／渡邊梨花／渡辺さよ子／渡辺真哉／匿名者5名(50音順)

「横浜・山北リフレッシュプログラム」決算報告(2013年8月31日現在)

収入の部		支出の部	
会費収入	70,000	食費・宿泊費(丹沢荘 野島研修センター)	1,245,845
寄附金収入	2,094,756	交流費(イベント及びおやつ代)	84,028
参加費収入	84,000	交通費(送迎バス代、ボランティア交通費)	478,642
雑収入(イベント)	9,120	保険料(トラベル保険、ボランティア保険)	45,500
前年度繰越金	1,034,498	広報関係	46,940
雑費	14,574	運営費(会議会場費、交通費)	120,381
		”(通信費、事務費、雑費)	107,634
		”(報告書作成)	100,000
収入合計	3,292,374	支出合計	2,243,544
		次年度繰越金	1,048,830



●ご支援をお待ちしています

賛同して下さった方々には、お知らせをお届けしますので、振り込み用紙にはよろしければメールアドレス・住所の明記をお願いします。

賛同金：個人一口3,000円 団体一口10,000円

郵便振替 口座名称：福島子ども・こらっせ神奈川

口座番号：00270-7-101155

「横浜・山北リフレッシュプログラム」報告書

発行日 2013年10月XX日

編集・発行 「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL: 045-353-9008 FAX: 045-353-9998

Email: info@korasse-kanagawa.org

写真/蜂谷隆・おいどん 表紙/めりの 制作/事務局